

令和6年（1～12月）における火災の状況（確定値）

防災情報室

1 総出火件数は37,141件、前年より1,531件の減少

令和6年（1～12月）における総出火件数は、37,141件で、前年より1,531件(4.0%)減少しています。これは、平均すると1日当たり約101件、約14分ごとに1件の火災が発生したことになります。

また、火災種別でみると、次表のとおりです。

令和6年（1～12月）における火災種別出火件数

種別	件数	構成比	前年比	増減率
建物火災	20,972	56.5%	▲2	0.0%
林野火災	831	2.2%	▲468	-36.0%
車両火災	3,546	9.5%	25	0.7%
船舶火災	62	0.2%	4	6.9%
航空機火災	3	0.0%	2	200.0%
その他火災	11,727	31.6%	▲1,092	-8.5%
総出火件数	37,141	100%	▲1,531	-4.0%

※小数点第2位以下は、四捨五入

2 総死者数は1,451人、前年より52人の減少

火災による総死者数は1,451人で、前年より52人(3.5%)減少しています。

また、火災による負傷者は5,805人で、前年より39人(0.7%)増加しています。

令和6年（1～12月）における火災による死傷者数

人数	前年比	増減率	1日当たり	発生割合
死者数	1,451	▲52	-3.5%	4.0人
負傷者数	5,805	39	0.7%	15.9人

3 住宅火災による死者（放火自殺者等を除く。）数は1,030人、前年より7人の増加

建物火災における死者1,199人のうち住宅（一般住宅、共同住宅及び併用住宅）火災における死者は、1,109人となっています。更にそこから放火自殺者等（放火自殺（心中を含む。）者及び放火自殺巻き添え・放火殺人の犠牲者）を除くと1,030人で、前年より7人(0.7%)増加しています。

なお、建物火災の死者数に対する住宅火災の死者数の割合は92.5%で、建物火災の件数に対する住宅火災の件数の割合56.5%と比較して非常に高くなっています。

4 住宅火災による死者（放火自殺者等を除く。）のおよそ4人に3人が高齢者

住宅火災による死者（放火自殺者等を除く。）1,030人のうち、65歳以上の高齢者は779人(75.6%)で、前年より17人(2.2%)増加しています。

また、住宅火災による死者の発生した経過別の内訳は、逃げ遅れ465人（対前年比50人(12.0%)増）、着衣着火45人（対前年比7人(18.4%)増）、出火後再進入16人（対前年同）、その他504人（対前年比50人(9.0%)減）となっています。

5 出火原因として最も多いものは「たばこ」、次いで「たき火」

総出火件数の37,141件を出火原因別にみると、「たばこ」3,058件(8.2%)、「たき火」2,781件(7.5%)、「こんろ」2,718件(7.3%)、「電気機器」2,577件(6.9%)、「放火」2,377件(6.4%)の順に件数が多くなっています。

問合せ先

消防庁防災情報室

TEL: 03-5253-7526